

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

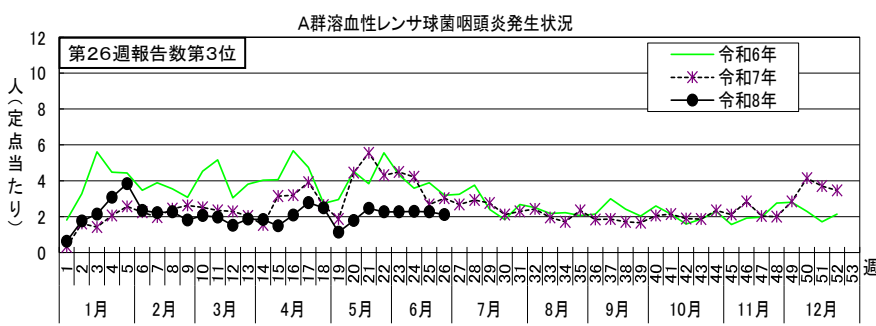
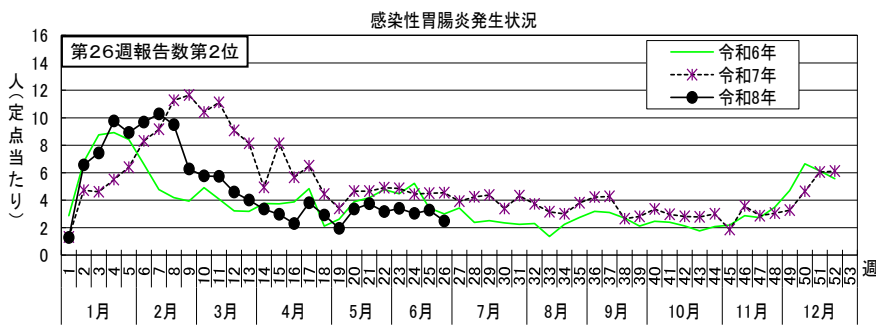
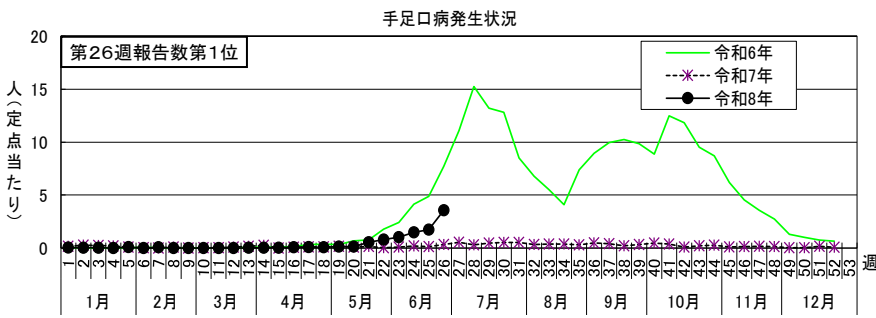
令和8年6月22日（月）～令和8年6月28日（日）〔令和8年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は3.57人と前週（1.73人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週（3.27人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.11人と前週（2.27人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

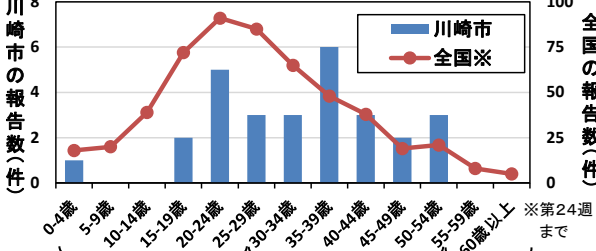


## 川崎市の麻しん（はしか）予防対策が強化されます！

今年は全国的に麻しんが流行していますが、川崎市でも6月末までに28件の報告があり、その約8割を子育て世代である20～40歳代が占めました。麻しんは感染力が極めて強く、重篤な合併症を引き起こすこともあり、発症や重症化の予防には麻しん含有ワクチンの2回接種が有効です。

定期接種の対象年齢に達していない0歳児は、り患すると特に重症化しやすいことから、家庭内での感染予防が重要です。川崎市では、0歳児と同居する両親へのワクチン接種等の助成を7月1日から開始します。また、定期接種の機会を逃したお子さんについても、無料接種の対象年齢を拡大します。詳しくは、市ホームページを御確認ください。

全国及び川崎市における年齢階級別麻しん発生状況  
(令和8年第1週～第26週)



世代別定期接種の回数	2回	1回 (一部追加接種の機会あり)	接種なし
0-4歳	2回		
5-9歳		1回	
10-14歳		1回	
15-19歳		1回	
20-24歳		1回	
25-29歳		1回	
30-34歳		1回	
35-39歳		1回	
40-44歳		1回	
45-49歳		1回	
50-54歳		1回	
55-59歳		1回	
60歳以上			接種なし

### 0歳児への家庭内感染防止を目的とした対策

#### ◆対象者

0歳児の同居の父母で、麻しんにり患したことがなく、かつワクチン接種歴が0回又は1回である川崎市民

#### ◆助成内容

- 母子健康手帳等により接種歴を確認できる場合  
麻しん含有ワクチンの接種費用1回分（接種技術料3,200円は自己負担）又は麻しん抗体検査※費用（全額）1回分
- 母子健康手帳等により接種歴を確認できない場合  
麻しん抗体検査※費用（全額）1回分  
※抗体価が不十分な場合、自費で麻しん含有ワクチンの接種を希望する方に限る。

#### ◆実施期間

令和8年7月1日から当面の間

#### ◆申込方法

協力医療機関（市ホームページに掲載）に直接申込

